

保育系短期大学卒業生の進路キャリア形成と短大評価（Ⅱ）

The life Course of Childcare College Graduates and Their Evaluation of Their Alumni Colleges (Ⅱ)

- Survey of Graduates from 14 Colleges -

安部 恵美子

1. はじめに

2005年、筆者らは「第1回短大卒業生調査」データに基づき、保育系短期大学卒業生の短大での学習経験、卒業後の職場で求められる能力と短大で獲得した能力の関連や職業意識、および、彼らの短大教育に対する総合的評価等についての報告を行なった。この報告では、保育系短大卒業生の短大教育に対する評価が、卒業時点または卒業後1～2年目は高いものの、3年を過ぎると短大で受けた教育に対する不足感を感じはじめ、さらに卒業直後に就いた職場に継続して勤務する者の割合が、3割となる卒後7年目には、短大教育の有用性に対する評価が一挙に低下していくことを明らかにした（注1）。

その要因には、卒後の職場の勤務条件が厳しいこと、平均勤続年数が短いことなど、保育職のキャリア形成にかかる問題が考えられる。

本論では、保育系短期大学卒業生の短大教育に対する評価の決定要因について、卒後の職業との関連で分析し、学科専攻対応職のキャリア形成の現状を明らかにする。

分析の対象となるデータは、「第2回短大卒業生調査」結果である。本調査は、1回目の調査項目を改良し、サンプル数を拡大して実施した。

「第2回短大卒業生調査」の概要

調査の実施：平成17年10月～12月 郵送法による質問紙調査

調査の対象：全国14短大の卒業生12,161名

回収：2,835 回収率23.4%

本論文の分析対象

保育系10短大（北海道1 関西1 中四国2 九州6）

卒後2年目（平成16年3月卒）354

卒後4年目（平成14年3月卒）299

卒後8年目（平成10年3月卒）276 計929

本研究は、短大卒保育者を対象とした調査の分析であるが、分析の前提として、

- ① 卒業生は、教育の成果そのものであると同時に、教育に対する最大の評価者である。
- ② 調査に現れた卒業生の意見には、客観性と主観性が交錯している。

③ 本調査の目的は、調査の実施主体である保育者養成校の教育内容の改善にある。
以上の三点を確認しておく。

2. 短大教育の総合的評価 その1

まず、保育専攻の短大卒者の短大教育に対する評価を、短大卒者全体また、保育以外の専攻分野の卒業生と比較してみる。短期大学教育の有用性に関して、7つの側面から問うと、保育系では、すべての有用性の平均値が高く、特に、「満足のいく仕事を見つける上で」と「現在の仕事をこなしていく上で」の有用性の平均は4点（5段階評価）を超え、職業関連の有用性に対する卒業生の評価が高いことが伺える。

さらに、そうした有用性評価の高さを反映して、（もし18歳に戻れたら再び）「短大に行く」「同じ専門分野に行く」可能性も短大全体の平均より、0.4ほど高く、逆に四年制大学志向は、平均よりも低かった。この結果は先回の調査でも同様であり、2回目の調査でも、保育系の卒業者は、短大教育に対して、最も高い評価を持ち、短大への回帰性が強いことが、再確認された。

表 2-1

	a: 満足のいく仕事を見つける上で	b: 現在の職務をこなしていく上で	c: 長期的な職業生活（キャリア）の基礎として	d: 人間関係を広げたり深める上で	e: 充実した家庭生活を送る上で	f: 人格の発達の上で	g: 教養（品位、一般常識、マナー）を深める上で
保育系	4.14	4.01	3.87	3.84	3.59	3.78	3.78
短大全体	3.67	3.53	3.56	3.66	3.42	3.66	3.68

	短大に行く	: 同じ短大に行く	同一専門分野を選ぶ	四年制大学に行く	専門学校に行く	進学しない
保育系	4.22	3.82	4.03	3.08	2.44	1.38
短大全体	3.79	3.53	3.66	3.33	2.70	1.39

3. 保育系短大卒業生のキャリア形成と職業意識

(1) 卒業直後の進路と現在

卒業直後に卒業生たちが辿った進路を見てみると、幼稚園教諭や保育士といった短大の専攻と対応した職業に就いた者が、正規職、非正規職を合わせると6割5分で、卒業生3人のうち2人は、短大の専攻を活かした職業分野に就職していることになる。学科対応職のうち、3分の1が幼稚園教諭、3分の2は保育士である。

卒業直後に進学した者は5%で、短大全体の(9.6%)の約半分の割合であり、他の学科よりも低い。また、卒業年次別では、卒業直後に進学も就職もしなかった者の割合が近年増加（卒後8年目17.7%→卒後2年目22.3%）し、また、非正規保育所保育士の割合も、卒業年次が若いほど増加（卒後8年目2.2%→卒後2年目9.0%）している（表3-1）。

現在も卒業生全体では、64.7%が保育職に従事しており、その内訳は幼稚園教諭16.3%、保育所保育士44.2%、施設保育士3.2%である。しかしながら、卒後2-8年目の保育職従事率は7割から5割に低下し、卒後8年目には、家事や子育てに専従する者の比率が2割に達している（表3-2）。

また、卒業生全体に占める正規職の割合は、55.7%であり、就業者に占める保育職の割合は8割で

保育系短期大学卒業生の進路キャリア形成と短大評価（Ⅱ）

ある。幼稚園教諭の9割は正規職である一方、保育所保育士65%、施設保育士73.3%が正規職である。幼稚園教諭と施設保育士の正規率は、卒年を経るにつれて低下しているが、保育所保育士の非正規職の割合は2年目の方が高く、卒後2年目の保育所保育士の半数近くは、非正規（パートも含む）職である。さらに、卒後4・8年目には、学科非対応職就業率が、14.0%から22.5%に増加している（表3-3）。

次に有職者の有配偶率について見ていこう。当然のことながら卒年を経ると既婚率は上昇する。しかし、卒後8年目の卒業生全体の未婚率が56.2%に対し、正規の幼稚園教諭・保育士（保育所・施設）のそれは、8割を超えている。非正規／パート職の保育士の半数以上が既婚者であることと対照的である。また、保育職以外の正規職の未婚率よりも15%以上高い。保育の職場は、既婚の正規職が少ないことが分かる（表3-4）。

表3-1 卒直後の進路

			正規 幼稚園教諭	非正規 幼稚園教諭	正規保育所 保育士	非正規 保育所保育士	正規 施設保育士	非正規 施設保育士	保育職 以外の 正規職	保育職 以外の 非正規職	その他	進学
		929	191	9	308	56	29	3	83	26	180	44
卒後2年目	H16年3月卒	354	18.4	1.4	29.1	9.0	2.3	0.6	7.9	2.5	22.3	6.5
卒後4年目	H14年3月卒	299	24.1	1.3	37.1	6.0	3.0	0.0	7.4	2.3	16.7	2.0
卒後8年目	H10年3月卒	276	19.6	0.0	34.1	2.2	4.3	0.4	12.0	3.6	17.7	6.2
	全体		20.6	1.0	33.2	6.0	3.1	0.3	8.9	2.8	19.1	5.0

表3-2 現在の状況1

		正規 幼稚園 教諭	非正規 幼稚園 教諭	パート 幼稚園 教諭	正規 保育所 保育士	非正規 保育所 保育士	パート 保育所 保育士	正規 施設 保育士	非正規 施設 保育士	パート 施設 保育士	保育職 以外 正規職	保育職 以外 非正規職	パート職	進学	求職中	家事・ 子育て	無回答 その他
	929	147	6	7	266	98	45	22	4	4	81	38	40	19	28	98	26
卒後2年目	354	16.7	0.3	0.3	28.2	15.5	6.8	2.8	0.3	0.0	8.5	4.0	3.1	4.2	2.0	4.5	2.8
卒後4年目	299	18.4	1.3	0.0	33.8	10.4	3.3	1.0	0.3	0.3	5.7	4.0	4.3	0.7	3.3	9.7	3.3
卒後8年目	276	12.0	0.4	2.2	23.6	4.3	4.0	3.3	0.7	1.1	12.3	4.3	5.8	0.7	4.0	19.2	2.2
	全体	15.9	0.6	0.8	28.7	10.6	4.9	2.4	0.4	0.4	8.7	4.1	4.3	2.0	3.0	10.5	2.8

表3-3 現在の状況2

		学科対応職 就業率 (対：全体)	学科対応職 就業率 (対：就業者)	学科 非対応職 就業率	正規職 就業率	正規率 (幼教諭)	正規率 (保保育士)	正規率 (施保育士)	正規率 (保職以外)
	929	599	599	159	516	160	409	30	159
卒後2年目	354	70.9	82.0	15.5	56.2	96.7	55.9	90.9	54.5
卒後4年目	299	68.9	83.1	14.1	58.9	93.2	71.1	60.0	40.5
卒後8年目	276	51.4	69.6	22.5	51.1	82.5	73.9	64.3	54.8
	全体	64.7	79.0	17.2	55.7	91.9	65.0	73.3	50.9

表3-4 有職者未配偶率

		全体	正規 幼稚園 教諭	非正規 幼稚園 教諭	パート 幼稚園 教諭	正規 保育所 保育士	非正規 保育所 保育士	パート 保育所 保育士	正規施設 保育士	非正規 施設 保育士	パート 施設 保育士	保育職 以外の 正規職	保育職 以外の 非正規職	保育職 以外の パート職
	929		147	6	7	266	98	45	22	4	4	81	38	40
卒後2年目	354	92.4	94.9	100.0	100.0	97.0	98.2	95.8	100.0	100.0	-	96.7	92.9	81.8
卒後4年目	299	82.6	96.4	75.0	-	87.1	96.8	100.0	66.7	100.0	100.0	94.1	100.0	84.6
卒後8年目	276	56.2	81.8	100.0	33.3	83.1	50.0	45.5	88.9	50.0	0.0	64.7	75.0	50.0

(2) 卒業後のキャリアの変化

現在の職業を幼稚園教諭・保育所保育士・施設保育士・その他の職の4つのカテゴリーに分類し、卒直後からの状況の変化を整理した。現在、正規職の8割以上は、卒業直後から正規職を継続している。特に、幼稚園教諭では正規継続者が9割を超える。保育職以外の4年目と8年目では、非正規から正規職へ転換した者が3割であり、保育職よりも比率が高い。保育所保育士の4年目と2年目に、非正規から正規職へ転換した者が1割を超えてはいるが、保育の正規職には、卒後からの継続組が圧倒的に多い。

逆に、卒業直後は正規職であったが、現在は非正規である者は、卒年を経るごとに増加する。また、2年目の非正規保育所保育士の5人に1人は、正規職からの転換であり、保育職内での転職（場）環境の厳しさが窺える（表3-5）。

表3-5 キャリアの変化

		正規職					非正規職		
		(N)	正規→正規	非正規→正規	就学→正規	求職・訓練→ 正規	(N)	正規→非正規	非正規→非正規
2年目	幼稚園教諭	59	93.2%	6.8%	0.0%	0.0%	4	25.0%	75.0%
	保育所保育士	99	85.9%	13.1%	0.0%	1.0%	71	21.1%	78.9%
	施設保育士	10	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	1	0.0%	100.0%
	その他の職	28	71.4%	21.4%	7.1%	0.0%	20	20.0%	80.0%
	合計	196	85.7%	11.7%	4.6%	0.5%	96	20.8%	79.2%
4年目	幼稚園教諭	55	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%	4	50.0%	50.0%
	保育所保育士	100	82.0%	18.0%	0.0%	0.0%	39	38.5%	61.5%
	施設保育士	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2	50.0%	50.0%
	その他の職	17	58.8%	31.2%	11.8%	0.0%	22	54.5%	45.5%
	合計	175	82.9%	16.0%	1.1%	0.0%	67	44.8%	55.2%
8年目	幼稚園教諭	33	97.0%	0.0%	3.0%	0.0%	6	83.3%	16.7%
	保育所保育士	65	84.6%	9.2%	4.6%	1.5%	20	65.0%	35.0%
	施設保育士	9	77.8%	11.1%	11.1%	0.0%	5	60.0%	40.0%
	その他の職	31	51.6%	29.0%	16.1%	3.2%	25	52.0%	48.0%
	合計	138	79.7%	11.6%	7.2%	1.4%	56	60.7%	39.3%

（３）労働時間と収入

卒業生の労働時間を職種と雇用形態別に見ると、正規職の週あたりの労働時間が最も長いのは、その半数が週 50 時間以上働いていると答えた幼稚園教諭である。特に、2 年目幼稚園教諭の労働時間が長い。それに対して、保育士の 3 割、保育職以外の職の 5 割は、法定労働時間の 40 時間であった（表 3-6）。また、非正規保育所保育士の労働時間は、40 時間未満が 1 割程度いるものの、45 時間以上も 3 割で、正規職と大差は見られなかった。

また、正規職の 1 ヶ月あたりの収入は、施設保育士が最も多く、次いで保育所保育士であり、幼稚園教諭の収入は保育士に比較すると少なく、2 年目の 4 割が 15 万円未満である。8 年目になっても幼稚園教諭で 20 万を越える収入を得る人は 1 割で、保育所保育士の 3 割、施設保育士の 5 割に及ばない状況にある（表 3-7）。雇用形態別保育所保育士の収入は、非正規職であっても、卒年次を経ると収入は増加する傾向にあるが、正規職との差は歴然である。また、パート職の収入は、全体の 6 割が 12 万 5 千円未満であった。

以上のことから、幼稚園教諭は、保育士に較べて、労働時間が長いにも拘らず、収入はむしろ低いことや、保育所保育士の、正規・非正規・パート、雇用形態による待遇の格差が、確認された。

表 3-6 正規職の労働時間

		(N)	40 時間	～ 45 時間	～ 50 時間	～ 60 時間	61 時間以上
幼稚園教諭	2 年目	53	3.8	9.4	34.0	28.3	24.5
	4 年目	44	13.6	25.0	25.0	27.3	9.1
	8 年目	31	9.7	12.9	41.9	29.0	6.5
	全体	128	8.6	15.6	32.8	28.1	14.8
保育所保育士	2 年目	89	22.5	20.2	37.1	14.6	5.6
	4 年目	89	27.0	21.3	34.8	14.6	2.2
	8 年目	61	44.3	19.7	29.5	4.9	1.6
	全体	239	29.7	20.5	34.3	12.1	3.3
施設保育士	2 年目	9	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	4 年目	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	8 年目	6	33.3	0.0	16.7	33.3	16.7
	全体	18	27.8	27.8	27.8	11.1	5.6
保育職以外	2 年目	24	41.7	16.7	33.3	4.2	4.2
	4 年目	14	35.7	21.4	0.0	42.9	0.0
	8 年目	25	68.0	20.0	8.0	0.0	4.0
	全体	63	50.8	19.1	15.9	11.1	3.2

表 3-7 正規職の収入

		(N)	10.0 万円未満	10.0 万円～	12.5 万円～	15.0 万円～	17.5 万円～	20.0 万円～	25.0 万円～	30.0 万円
幼稚園教諭	2 年目	58	0.0	3.4	37.9	48.3	6.9	3.4	0.0	
	4 年目	52	0.0	1.9	32.7	44.2	17.3	3.8	0.0	
	8 年目	33	0.0	0.0	3.0	39.4	48.5	9.1	0.0	0.0
	全体	143	0.0	2.1	28.0	44.8	20.3	4.9	0.0	
保育所保育士	2 年目	98	0.0	6.1	26.5	54.1	10.2	3.1	0.0	
	4 年目	97	0.0	2.1	13.4	57.7	21.6	5.2	0.0	
	8 年目	65	0.0	0.0	4.6	27.7	36.9	30.8	0.0	0.0
	全体	260	0.0	3.1	16.2	48.8	21.2	10.8	0.0	
施設保育士	2 年目	10	0.0	0.0	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0	
	4 年目	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	
	8 年目	9	0.0	11.1	0.0	11.1	22.2	55.6	0.0	0.0
	全体	22	0.0	4.5	4.5	36.4	31.8	22.7	0.0	
保育職以外	2 年目	26	0.0	0.0	38.5	30.8	23.1	3.8	3.8	
	4 年目	17	0.0	11.8	17.6	35.3	23.5	5.9	5.9	
	8 年目	33	3.0	3.0	24.2	36.4	15.2	12.1	3.0	3.0
	全体	76	1.3	3.9	27.6	34.2	19.7	7.9	3.9	1.3

(4) 職業に対する意識

卒業生が最も仕事で重視することは「職場の雰囲気よさ」であり、逆に最も重視しないことは「昇進の見通し」であった。仕事の意味は「新たな学びの機会」「自分の適性を活かす機会」「裁量権（仕事における自律性）」と考える傾向が強い。

仕事に対する重視度と満足度との差が大きい（すなわち、不足感が強い）項目は、「収入」や「余暇のためのゆとり」であった。

職業別では、非保育職の職業満足度は、保育職に較べて低い。保育職は、どの就業形態にあっても、仕事の内容そのものへの満足度は高く、保育職は、短大で学んだことが活かせ、新しいことが学べ、また、社会に役立つ仕事であるとの意識が高い。

しかしながら、非正規職やパート職の保育者の収入や身分保障に関する不満は、正規職よりも高い。仕事と家庭の両立に対する正規の幼稚園教諭の満足度は、2.78と最も低いが、パート保育所保育士のそれは最も高い（表3-8）。

正規保育職の卒年別では、2年目幼稚園教諭の余暇のためのゆとりへの強い不満が見てとれる。また、卒後8年目の保育所保育士の重視度と満足度の乖離は、最も小さい。幼稚園教諭8年目が、仕事と家庭の両立、余暇のためのゆとり、収入への不満が高まっているのとは対照的である。

表3-8 仕事意識（職業別）

	正規幼稚園教諭			正規保育所保育士			正規施設保育士			非正規保育所保育士			パート保育所保育士			保育職以外の正規職		
	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差
a: 短大での知識技能の活用	4.21	4.31	-0.09	4.16	4.27	-0.10	4.01	4.14	-0.05	4.17	4.22	-0.06	4.43	4.35	0.08	3.38	2.97	0.41
b: 自分の適性を活かす機会	4.23	4.13	0.10	4.08	3.98	0.10	3.90	3.81	0.01	4.08	4.04	0.03	4.20	4.18	0.03	3.80	3.46	0.35
c: 新たな事を学ぶ機会	4.16	4.01	0.16	4.21	4.06	0.15	4.33	4.14	0.19	4.16	4.13	0.02	4.35	4.30	0.05	3.99	3.77	0.21
d: 仕事をする上での自律性	4.19	4.01	0.10	4.06	4.01	0.05	4.19	4.33	-0.14	4.03	3.89	0.15	4.30	4.21	0.09	4.01	3.83	0.18
e: 社会に役立つ機会	4.06	4.06	0.00	4.00	3.93	0.07	3.90	4.01	-0.19	3.96	3.93	0.02	4.35	4.28	0.07	3.86	3.80	0.06
f: 通勤の便	3.91	3.98	-0.07	3.88	4.03	-0.15	3.62	4.19	-0.57	3.84	3.87	-0.02	3.83	3.97	-0.15	3.56	3.57	-0.02
g: 男女差別のなさ	3.61	3.63	-0.02	3.61	3.47	0.14	3.48	3.19	0.29	3.47	3.42	0.05	3.95	3.82	0.13	3.70	3.67	0.03
h: 余暇のためのゆとり	4.16	2.87	1.29	4.11	3.12	0.99	3.90	3.38	0.52	4.00	3.08	0.92	4.13	3.70	0.43	3.66	3.27	0.39
i: 仕事と家庭の両立	3.70	2.78	0.93	3.85	3.22	0.63	3.38	3.01	0.29	3.76	3.18	0.58	3.88	3.70	0.18	3.79	3.13	0.66
j: 高い収入	3.85	2.74	1.11	3.79	2.97	0.82	3.57	2.76	0.81	3.80	2.65	1.15	3.65	2.65	1.00	3.56	2.77	0.79
k: 雇用と身分の保障	4.04	3.49	0.55	4.04	3.63	0.42	4.00	3.57	0.43	4.13	3.34	0.79	3.83	3.23	0.60	3.87	3.79	0.09
l: 社会的な評価	3.81	3.58	0.23	3.70	3.62	0.08	3.43	3.67	-0.24	3.74	3.48	0.26	3.83	3.58	0.25	3.42	3.54	-0.12
m: 昇進の見通しがあること	3.21	2.95	0.26	3.33	3.06	0.27	2.90	2.95	-0.05	3.48	2.67	0.81	3.40	2.80	0.60	3.20	3.07	0.13
n: 職場の雰囲気よさ	4.73	3.83	0.90	4.64	3.79	0.85	4.29	3.48	0.81	4.60	3.69	0.91	4.68	4.08	0.60	4.41	3.68	0.73
合 計	55.90	50.45	5.45	55.47	51.15	4.32	53.00	50.81	2.19	55.22	49.59	5.63	56.77	52.83	3.94	52.22	48.33	3.89

保育系短期大学卒業生の進路キャリア形成と短大評価（Ⅱ）

表3-9 仕事意識（幼稚園教諭・保育所保育士卒年別）

	正規幼稚園教諭									正規保育所保育士								
	2年目			4年目			8年目			2年目			4年目			8年目		
	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差	重視度	満足度	差
a: 短大での知識技能の活用	4.22	4.30	-0.08	4.25	4.32	-0.08	4.16	4.29	-0.13	4.26	4.33	-0.07	4.09	4.16	-0.07	4.13	4.34	-0.21
b: 自分の適性を活かす機会	4.14	4.08	0.06	4.23	4.04	0.19	4.38	4.39	-0.01	3.92	3.89	0.03	4.18	4.02	0.15	4.17	4.05	0.13
c: 新たな事を学ぶ機会	3.96	3.90	0.06	4.15	3.91	0.25	4.52	4.35	0.16	4.22	4.10	0.12	4.25	4.10	0.15	4.16	3.95	0.21
d: 仕事をする上での自律性	4.08	4.02	0.06	4.17	4.06	0.11	4.42	4.29	0.13	3.99	4.00	-0.01	4.08	4.03	0.04	4.14	3.98	0.16
e: 社会に役立つ機会	3.90	3.98	-0.08	4.09	4.04	0.06	4.26	4.23	0.03	3.98	3.87	0.11	4.01	3.97	0.04	4.03	3.97	0.07
f: 通勤の便	3.92	4.02	-0.10	3.87	3.98	-0.11	3.97	3.90	0.06	4.05	4.18	-0.13	3.89	3.99	-0.10	3.60	3.85	-0.25
g: 男女差別のなさ	3.63	3.52	0.11	3.55	3.71	-0.16	3.71	3.68	0.03	3.66	3.34	0.32	3.70	3.53	0.17	3.40	3.56	-0.17
h: 余暇のためのゆとり	4.08	2.82	1.25	4.30	2.85	1.46	4.06	3.00	1.06	4.00	2.85	1.15	4.23	3.21	1.02	4.01	3.41	0.69
i: 仕事と家庭の両立	3.61	2.78	0.83	3.70	2.86	0.84	3.87	2.65	1.23	3.80	3.07	0.74	3.95	3.26	0.69	3.76	3.39	0.37
j: 高い収入	3.80	2.90	0.90	3.94	2.58	1.37	3.77	2.74	1.03	3.71	2.84	0.87	3.85	3.00	0.85	3.84	3.13	0.71
k: 雇用と身分の保障	4.08	3.43	0.65	4.11	3.50	0.61	3.87	3.58	0.29	4.08	3.53	0.54	4.04	3.52	0.52	4.00	3.92	0.08
l: 社会的な評価	3.90	3.64	0.26	3.70	3.37	0.33	3.87	3.84	0.03	3.68	3.65	0.03	3.76	3.57	0.19	3.65	3.65	0.01
m: 昇進の見通しがあること	3.16	3.14	0.02	3.11	2.71	0.40	3.45	3.03	0.42	3.46	3.02	0.44	3.46	3.08	0.38	2.94	3.08	-0.14
n: 職場の雰囲気のよさ	4.67	3.84	0.83	4.81	3.67	1.14	4.68	4.06	0.61	4.61	3.60	1.02	4.70	3.80	0.90	4.59	4.06	0.52
合 計	55.15	50.38	4.77	55.98	49.58	6.40	56.98	52.03	4.95	55.42	50.26	5.16	56.19	51.23	4.95	54.51	52.34	2.17

（５）支持する女性の生き方

卒業生が最も支持する女性の生き方は、「結婚や出産時に仕事を辞めるが、子どもが一定の年齢になったら再び働く（「再就職」）」である。この生き方を支持する割合は、国民意識調査等に較べると、短大卒業生全体でも58.7%と高いが、さらに、本分析対象である保育系短大卒業生の支持率は64.8%に上る。「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（「継続」）」は、全体に2割強に過ぎず、特に幼稚園教諭は1割である。

また、「結婚や出産時に仕事を辞める（「家事専業」）」の支持は、7.0%である。

さらに、卒年次や職種・雇用形態別に見ていくと、保育系卒業生全体では、どの卒年次も「再就職」「継続」の支持率は変わらない。また、正規職では、幼稚園教諭の「再就職」7割、「継続」と「家事専業」が各々1割であるのに対し、保育所保育士と非保育職は、「再就職」6割、「継続」3割程度と傾向が似通っている。卒年次を経ると「再就職」が減り、「継続」支持が増え、卒後8年目には「継続」「再就職」支持が、共に4割と拮抗する。8年目幼稚園教諭の「継続」1割強、「再就職」8割弱との違いは鮮明である。

同じ保育系短大を卒業しても、職場環境が違えば、生き方に関する考えも違ってくるのだろうか（表3-10）。

表 3-10 女性の生き方として近い考え

			結婚しないで 仕事を続ける	結婚や出産に かかわらず 仕事を続ける	結婚や出産時に 仕事を辞める	結婚や出産時に 仕事を辞めるが、 子供が一定の 年齢になったら 再び	仕事に就かない で結婚する	仕事に就かない で結婚し、 子供が一定の 年齢になったら 仕事に就く	無回答・その他	
保育系短大			929	1.2	22.7	7.0	64.9	0.2	0.5	1.9
2年目			354	0.3	24.0	6.2	65.0	0.3	0.8	3.4
4年目			299	2.0	17.4	9.4	66.9	0.3	0.3	3.6
8年目			276	1.4	26.8	5.4	62.7	0.0	0.4	3.2
正規幼稚園教諭	全体	147	0.7	10.2	13.6	72.1	0.0	0.0	0.0	3.4
	2年目	59	0.0	10.2	13.6	74.6	0.0	0.0	0.0	1.7
	4年目	55	0.0	9.1	21.8	65.5	0.0	0.0	0.0	3.6
	8年目	33	3.0	12.1	0.0	78.8	0.0	0.0	0.0	6.0
正規保育所保育士	全体	266	0.4	28.9	4.5	63.5	0.0	0.4	0.0	2.3
	2年目	100	0.0	29.0	2.0	68.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4年目	101	1.0	20.8	4.0	72.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	8年目	65	0.0	41.5	9.2	43.1	0.0	1.5	0.0	1.5
正規他職	全体	81	1.2	33.3	6.2	59.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	2年目	30	0.0	26.7	0.0	73.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	4年目	17	5.9	23.5	11.8	58.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	8年目	34	0.0	44.1	8.8	47.1	0.0	0.0	0.0	0.0
(参考)	人文系短大	503	2.2	35.0	7.0	52.7	0.6	0.0	0.0	2.6
(参考)	家政系短大	948	2.4	26.4	8.8	58.3	0.7	0.6	0.0	2.7

4. 短期大学教育で身につけた職業能力

13項目の職場で必要とされる能力について、「A. 短大在学中にどの程度身につけたか」「B. 現在の職場でどの程度必要とされているか」の段階評価の平均値と、「短大教育での不足(B-A)」を考察した。

全体では、専門的な知識や技能(3.62)、礼儀・マナー(3.60)、コミュニケーション能力(3.57)をよく身につけたと思うが、職場で必要とされる能力は、礼儀・マナー(4.63)、コミュニケーション能力(4.58)、専門的な知識や技能(4.52)など、レベルが高いと考えている。不足感が強いのは、チームや一人で仕事を遂行する力や、問題解決能力であった。

職種・卒年別では、保育の職場で強く不足感を感じる能力が、一人で仕事をする能力、チームの中で仕事を遂行する能力、仕事への適応能力であることは、幼稚園・保育所・施設でも変わりはない。また、在学中に身につけた職業能力の総和値と、職場で必要とされる能力の総和値は、保育士よりも、幼稚園教諭の方が高いという傾向も見られた(表4-1)。

幼稚園教諭と保育所保育士の2年目と8年目を比較すると、幼保共に、卒後8年目に必要と考える職業能力は、2年目よりも高い。特に、幼稚園教諭8年目の必要能力は高かった(幼59.61 保57.63)。また、8年目は、在学中に身につけた能力の値が2年目よりも低いので、不足感が強くなっている。特に、問題解決能力や礼儀・マナー、仕事への適応能力を在学中に身につけていなかったと短大教育を厳しく評価している(表4-2)。

保育系短期大学卒業生の進路キャリア形成と短大評価（Ⅱ）

表 4-1 短大獲得能力（正規保育職）

A: 短大在学中に身につけた能力

B: 職場で必要な能力

能力	正規幼稚園教諭 (147)			正規保育所保育士 (246)			正規施設保育士 (22)		
	A	B	B-A	A	B	B-A	A	B	B-A
a: 幅広い知識・教養	3.41	4.37	0.96	3.34	4.37	1.03	3.23	4.27	1.05
b: 専門的な知識・技能	3.69	4.65	0.95	3.59	4.60	1.02	3.41	4.41	1.00
c: 外国語の能力	1.99	2.09	0.10	1.88	1.91	0.03	1.73	1.77	0.05
d: コンピュータを使いこなす技能	2.54	2.86	0.33	2.36	2.79	0.43	2.41	3.09	0.68
e: 問題解決能力	3.20	4.24	1.05	2.97	4.13	1.16	3.32	4.45	1.14
f: ひとりで仕事をこなせる力	3.22	4.42	1.20	3.01	4.22	1.20	3.14	4.27	1.14
g: チームの中で仕事を遂行する能力	3.50	4.63	1.14	3.35	4.46	1.11	3.23	4.41	1.18
h: 仕事への適応力	3.48	4.71	1.23	3.41	4.52	1.11	3.45	4.41	0.95
i: 創造性	3.47	4.52	1.05	3.33	4.31	0.98	3.00	3.77	0.77
j: 自発性、自主性	3.61	4.67	1.06	3.37	4.46	1.08	3.32	4.23	0.91
k: コミュニケーション能力	3.76	4.67	0.90	3.53	4.57	1.04	3.45	4.36	0.91
m: 人との交渉能力、折衝能力	3.20	4.22	1.02	2.92	4.02	1.09	2.82	3.91	1.09
l: リーダーシップを発揮できる力量	3.31	4.37	1.05	3.12	4.24	1.12	3.14	4.18	1.05
n: 礼儀・マナー	3.65	4.78	1.12	3.60	4.72	1.12	3.59	4.64	1.05
全体	46.04	59.21	13.17	43.78	57.31	13.53	43.23	56.18	12.95

表 4-2

A: 短大在学中に身につけた能力

B: 職場で必要な能力

能力	卒後 2 年目						卒後 8 年目					
	正規幼稚園教諭			正規保育所保育士			正規幼稚園教諭			正規保育所保育士		
	A	B	B-A	A	B	B-A	A	B	B-A	A	B	B-A
a: 幅広い知識・教養	3.34	4.34	1.00	3.38	4.37	0.99	3.30	4.45	1.15	3.26	4.35	1.09
b: 専門的な知識・技能	3.63	4.54	0.92	3.67	4.63	0.96	3.67	4.82	1.15	3.45	4.62	1.17
c: 外国語の能力	2.12	2.24	0.12	2.01	1.77	-0.24	1.85	1.85	0.00	1.66	1.89	0.23
d: コンピュータを使いこなす技能	2.75	2.69	-0.05	2.65	2.69	0.04	1.97	2.88	0.91	1.83	2.88	1.05
e: 問題解決能力	3.36	4.14	0.78	3.04	3.92	0.88	2.76	4.30	1.55	2.86	4.26	1.40
f: ひとりで仕事をこなせる力	3.24	4.39	1.15	3.08	4.16	1.08	2.82	4.48	1.67	2.92	4.17	1.25
g: チームの中で仕事を遂行する能力	3.58	4.51	0.93	3.42	4.42	1.00	3.12	4.70	1.58	3.37	4.55	1.18
h: 仕事への適応力	3.56	4.69	1.14	3.48	4.48	1.00	3.24	4.73	1.48	3.23	4.60	1.37
i: 創造性	3.42	4.41	0.98	3.40	4.32	0.92	3.06	4.64	1.58	3.25	4.29	1.05
j: 自発性、自主性	3.53	4.64	1.12	3.46	4.40	0.94	3.48	4.73	1.24	3.18	4.43	1.25
k: コミュニケーション能力	3.80	4.69	0.90	3.67	4.52	0.85	3.45	4.67	1.21	3.45	4.60	1.15
m: 人との交渉能力、折衝能力	3.10	4.07	0.97	3.03	3.93	0.90	2.94	4.24	1.30	2.78	3.92	1.14
l: リーダーシップを発揮できる力量	3.27	4.24	0.97	3.31	4.21	0.90	3.06	4.39	1.33	2.85	4.26	1.42
n: 礼儀・マナー	3.64	4.75	1.10	3.8	4.72	0.92	3.33	4.73	1.39	3.20	4.80	1.60
全体	46.32	58.34	12.02	45.40	56.54	11.14	42.06	59.61	17.55	41.29	57.63	16.34

5. 短大教育の総合的評価 その2

ここでは、第1章で述べた短大教育の総合評価（アウトカム）について、2章以下で使用した職種・雇用形態による分類等、卒業生の現状を分析軸として見ていく（表5-1）。

教育の有用性指標7項目で「満足のいく仕事を見つける」「現在の職務をこなす」という職業に関する有用性評価は、保育職（幼稚園教諭・保育士）であれば雇用形態の別なく4点を越えている。また、社会生活面や教養面での有用性評価も、職業効用の高さを反映して、短大の他の学科の卒業生や非保育職に比較して高い。

逆に、非保育職は、保育職に較べて、どの雇用形態においても職業に関する有用性は低く、職業有用性よりも、社会生活や教養面での有用性を高く評価している。

また、雇用形態別の保育所保育士の有用性評価は、7項目中6項目で、パート職が最も高く、「長期的なキャリアの基礎として」短大教育が役に立つと考える傾向が強い。今はパート職である彼らは、将来的には、資格や保育経験を活かした正規職への転換をキャリアプランとして描いているのだろうか。同様に「長期的キャリアの基礎として」短大教育が役に立ったと評価しているのは、正規の保育職8年目である。保育職としての経験を重ね保育者として一人前になろうとしている頃の卒業生にとって、短大教育は保育職を継続する上での基礎であると強く認識されるのであろうか。

卒業後保育職に就いたものの、結婚や子育てなどで退職した、元保育者の短大教育の有用性に対する評価が高く、その中でも15人と少数ではあるが、元幼稚園教諭の評価が分析軸である現在の状況別の中で、最も高い。逆に、保育職以外のパート職の有用性評価が最も低く、特に、職業効用に対する評価が厳しい。保育とは無関係なパート職の人は、短大で受けた教育が役に立っていないと考えているのである。

つまり、保育系短大教育への評価は、現在、保育職を継続しているか、中断しているかというよりも、これまでに経験したかどうかで異なるのである。保育職を経験していない卒業生の評価が低いことは容易に想像できるが、保育職を中断（退職して家事・子育て専従）した人の短大教育評価が、現職の保育者よりも高いことは興味深い。

次に、もし18歳に戻れたら進路の可能性として、「短大へ」「同じ短大へ」「同じ専門分野」へ回帰する可能性についても、保育職を経験したかどうかで決まることが分かる。保育職を経験した卒業生の回帰性は、経験していない人に較べて、保育職場別・卒年別・雇用形態別を問わず高いのである。

また、四年制大学志向が強いのは、卒後8年目の正規保育職である。短大卒というキャリアの不足を感じ始めるのであろうか。

保育系短期大学卒業生の進路キャリア形成と短大評価（Ⅱ）

表5-1 アウトカム評価

				短大教育有用性指標							合計	総合的アウトカム					
				a: 満足のいく仕事を見つけた上で	b: 現在の職務をこなす上で	c: 長期的な職業生活（キャリア）の基礎として	d: 人間関係を広げたり深める上で	e: 充実した家庭生活を送る上で	f: 人格の発達の上で	g: 教養（品位、一般常識、マナー）を深める上で		短大に行く	：同じ短大に行く	同一専門分野を選ぶ	四年制大学に行く	専門学校に行く	進学しない
正規職	正規幼稚園教諭		147-125	4.39	4.33	3.98	3.97	3.59	3.91	3.87	28.05	4.38	4.04	4.13	3.27	2.13	1.30
	正規保育所保育士		294-230	4.30	4.34	4.03	3.80	3.50	3.69	3.73	27.39	4.35	3.97	4.24	3.12	2.30	1.30
	正規施設保育士		21～18	4.19	4.29	3.86	3.81	3.38	3.76	3.81	27.10	4.10	3.85	4.00	3.65	2.21	1.32
	保育職以外の正規職		80～72	3.70	3.28	3.51	3.79	3.56	3.72	3.61	25.17	3.66	3.20	3.62	3.33	2.85	1.44
正規職 (卒年別)	正規幼稚園教諭	2年目	59-49	4.27	4.27	3.86	3.86	3.58	3.90	3.81	27.56	4.59	4.24	4.23	3.06	2.27	1.41
		4年目	55-50	4.44	4.47	4.04	3.98	3.56	3.89	3.87	28.25	4.20	3.91	3.96	3.24	1.96	1.22
		8年目	33-26	4.55	4.21	4.09	4.12	3.67	3.97	3.97	28.58	4.31	3.90	4.25	3.70	2.19	1.27
	正規保育所保育士	2年目	100-84	4.32	4.39	3.89	3.86	3.50	3.73	3.85	27.54	4.36	3.97	4.12	2.79	2.13	1.30
		4年目	100-89	4.29	4.32	4.10	3.75	3.48	3.61	3.68	27.23	4.46	4.18	4.28	3.08	2.51	1.38
		8年目	64-57	4.27	4.31	4.16	3.78	3.52	3.75	3.63	27.41	4.15	3.64	4.33	3.69	2.25	1.16
	正規施設保育士	2年目	10～8	4.10	4.20	3.50	3.90	3.80	4.10	4.20	27.80	4.20	4.00	3.75	3.50	2.30	1.10
		4年目	2	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	3.50	3.50	26.00	4.50	4.00	4.50	3.00	1.50	1.00
		8年目	9～7	4.33	4.44	4.22	3.67	3.00	3.44	3.44	26.56	3.88	3.63	4.13	4.00	2.29	1.71
	正規他職	2年目	29～24	3.64	3.29	3.46	3.83	3.62	3.79	3.69	25.32	3.81	3.15	3.50	2.88	2.73	1.96
		4年目	17	3.53	3.65	3.59	3.76	3.41	3.94	3.76	25.65	4.00	3.76	4.12	3.18	2.94	1.18
		8年目	34～31	3.82	3.09	3.52	3.76	3.58	3.55	3.47	24.78	3.36	2.94	3.45	3.78	2.90	1.19
非正規職	非正規幼稚園教諭		6	4.17	4.67	3.83	3.67	3.33	3.50	3.33	26.50	4.00	3.20	4.00	4.60	1.40	1.00
	非正規保育所保育士		95～83	4.23	4.22	3.95	3.80	3.48	3.66	3.75	27.09	4.52	4.01	4.30	2.66	2.33	1.43
	非正規施設保育士		4	4.50	4.00	3.75	4.50	3.50	4.00	3.75	28.00	4.50	4.25	3.75	4.00	2.33	1.67
	保育職以外の非正規職		38～32	3.47	3.03	3.30	3.66	3.47	3.79	3.66	24.38	3.83	3.49	3.59	3.60	2.91	1.63
非正規職 (卒年別)	非正規保育所保育士	2年目	52～46	4.19	4.17	3.92	3.90	3.42	3.69	3.77	27.08	4.48	4.00	4.23	2.68	2.43	1.61
		4年目	31～25	4.16	4.13	3.84	3.65	3.58	3.68	3.81	26.84	4.48	4.10	4.36	2.77	2.16	1.20
		8年目	12	4.58	4.67	4.33	3.73	3.50	3.50	3.50	27.81	4.75	3.83	4.42	2.33	2.25	1.25
	保育職以外の非正規職	2年目	14～11	3.50	3.36	3.57	3.64	3.50	3.93	3.93	25.43	3.85	3.31	3.54	3.54	3.25	1.55
		4年目	12～10	3.33	2.58	3.00	3.75	3.42	3.67	3.67	23.42	3.91	3.73	3.10	3.36	2.80	1.80
		8年目	12～11	3.58	3.08	3.25	3.58	3.50	3.75	3.33	24.08	3.73	3.45	4.09	3.91	2.67	1.55
パート職	パート幼稚園教諭		9～8	4.22	4.33	4.11	4.00	3.89	3.89	3.78	28.22	4.63	4.13	4.50	2.67	3.00	1.88
	パート保育士保育士		45～36	4.24	4.47	4.18	3.82	3.76	3.82	3.82	28.12	4.25	3.95	4.07	2.58	2.64	1.17
	パート施設保育士		4～3	4.50	4.25	3.25	3.50	3.75	3.50	3.75	26.50	3.67	3.33	3.67	4.33	3.00	1.50
	保育職以外のパート職		39～36	3.10	2.44	3.08	3.49	3.26	3.54	3.56	22.46	3.42	3.13	3.05	3.14	2.83	1.94
パート職 (卒年別)	パート保育士保育士	2年目	24～18	4.00	4.21	3.92	3.83	3.67	3.71	3.71	27.04	4.01	3.71	4.00	2.89	2.56	1.22
		4年目	10～8	4.40	4.70	4.44	3.70	3.90	4.00	4.00	29.14	5.00	4.67	4.56	2.50	2.56	1.25
		8年目	11～9	4.64	4.82	4.55	3.91	3.82	3.91	3.91	29.55	3.90	3.80	3.82	2.00	2.89	1.00
	保育職以外のパート職	2年目	11～10	3.73	2.91	3.64	4.09	3.73	4.00	4.18	26.27	3.36	3.55	3.27	3.50	3.20	2.40
		4年目	13	2.85	2.31	3.08	3.54	3.38	3.77	3.62	22.54	3.54	3.00	3.00	3.31	2.77	1.69
		8年目	15～12	2.87	2.20	2.67	3.00	2.80	3.00	3.07	19.60	3.36	2.93	2.92	2.69	2.58	1.83
雇用形態別 (保育所保育士)	正規保育所保育士		294-230	4.30	4.34	4.03	3.80	3.50	3.69	3.73	27.39	4.35	3.97	4.24	3.12	2.30	1.30
	非正規保育士保育士		95～83	4.23	4.22	3.95	3.80	3.48	3.66	3.75	27.09	4.52	4.01	4.30	2.66	2.33	1.43
	パート保育士保育士		45～36	4.24	4.47	4.18	3.82	3.76	3.82	3.82	28.12	4.25	3.95	4.07	2.58	2.64	1.17
子育て中 (前職)	元幼稚園教諭		15	4.73	4.07	3.93	4.20	4.13	4.27	4.40	29.73	4.87	4.60	4.50	2.71	1.86	1.21
	元保育所保育士		43～40	4.44	4.26	4.16	3.88	4.02	3.81	3.81	28.40	4.52	3.93	4.22	2.78	2.29	1.33
	元施設保育士		4	4.75	4.25	4.00	4.00	4.00	3.75	3.75	28.50	5.00	4.00	4.67	2.67	2.33	1.00
	元保育職以外		36～32	3.58	3.06	3.56	4.06	3.97	3.89	3.78	25.89	4.19	3.64	3.49	2.70	2.94	1.56

6. まとめと問題提起

卒業直後に学科対応職へ就職した者が3分の2、そして、現在働いている者の8割が学科対応職である保育系短期大学の卒業生の状況は、短大教育が保育者養成という機能を果たし、一定の成果を挙げていることを示している。

しかしながら、多くの卒業生たちが働く保育の職場の状況には厳しいものがあつた。非保育職と比較して、長い勤務時間と低い収入という傾向が特に、幼稚園教諭に強かつた。正規職では、幼稚園教諭よりも収入の多い保育所保育士の、正規職率は近年低下しており、卒後2年目の保育所保育士の45%は非正規職であつた。また、非正規から正規職への転換は困難であつた。さらに、正規職では、卒後8年目でも既婚率が2割に満たない状況にあつた。また、卒年次を経ると、非保育職への就業者が増加していた。

これらのことは、保育職の専門性の確立と、キャリア形成の困難性を意味している。専門性の確立・向上のためには、安定した雇用形態の確保と、職業継続を可能にする職場の条件整備が必要であるが、この卒業生たちの状況を見る限り、その環境は整っていない。

こうした卒業後の職場環境の中で保育職を継続する者、保育職以外の職を選択する者、家事子育てに専従する者など、卒業生たちの進路は別れていくが、彼らの多くが選好する女性の生き方は、「結婚や子育てで仕事を辞めるが、子どもが一定の年齢になったら再び仕事をする」であつた。男女共同参画が進む現代では、保守的とさえいえるこの選好の要因は何であろうか。

まず、一つには、本調査結果からも明らかになった、結婚や出産後には正規職継続が困難な職場環境に対する妥協策としての選択が考えられよう。結婚出産後の継続がより困難な幼稚園教諭は、保育士よりもこの考え方を支持する者が多いことはその現われであろう。また、この考え方は、短期大学卒業生全体においても広く支持されていることから、短大という教育機関の顕在的、且つ潜在的カリキュラムが反映している可能性もある。さらには、彼らの多くが子育ての重要性や大変さを熟知している保育職であること、そして、一端離職した後も、求職すれば、多様な雇用形態での保育職採用の可能性が高いことも、その要因であろう。

卒業生たちの職業意識には、職場環境の雰囲気の良いさと、今現在の仕事のやりがいに対するこだわりは強いが、キャリアのステップアップに対する関心は薄い。彼らの多くは、正規職継続よりもライフステージに合わせた、柔軟な働き方を望んでいると思われる。

このような考え方をする卒業生にとって、保育職を、専門性の確立に困難が伴う悪条件の職種と見るか、短大教育で得た収益（資格など）の保障の下で、柔軟な働き方が選択できる職種と見るかは意見が分かれるところであろう。

次に、職業に対する満足度と短大教育に対する評価について見ていこう。

保育職に従事する卒業生は、仕事に対して、余暇の少なさや低い賃金には不満だが、短大で獲得した知識や技術と自分の適性を活かしながら、新しいことを学び、社会に貢献できると考えている。そうしたやりがいのある仕事に就けた有用性により短大教育を高く評価し、今18歳に戻っても進路に保育系短大を選択する傾向は強い。しかし、基礎を短大で学んで職に就けたものの、年次を経ると職業能力に対する不足感が高まってくると感じている。

また、同級生の多くが保育職である状況の中で、非保育職の職業満足度は低く、保育職を経験していないことが、短大教育に対する評価を低下させていることも明らかになった。

最後に、本調査の分析結果から導き出された、保育系短期大学教育の課題について記す。この課

題に取り組むことは、短期大学が、アメリカのコミュニティカレッジのように、地域の職業人養成機関と生涯学習機関としての評価を高め、定着させる方策となるであろう。

①卒業直後の保育職への就職支援体制の強化

教育の総合的評価は、卒後、保育職に従事したかどうかによって左右される。可能な限り正規職への就職を目標とし、教育課程の充実と就職斡旋を実施する

②保育職継続のための現職エンパワーメントメニュー開発

短大で身につけた知識や技術に対する不足感を持つ保育職継続者を対象に、保育や子育て支援のリーダー養成を目的とする研究・研修機会の提供を行なう

③再就職希望者に対する情報の提供

卒業生の再就職への意欲は高い。彼らが学びやすい再学習の機会を提供し、同時に、地域の保育人材ネットワークを構築する

謝辞：本調査にご協力いただきました全国 14 の短大の卒業生の皆様に厚くお礼申し上げます。

注 1：

①安部恵美子 白川佳子「保育系短期大学卒業生の進路・キャリア形成と短大評価」

長崎短期大学研究紀要第 18 号（平成 18 年 3 月刊）

②安部恵美子 松永一臣「卒業生の現状から見た保育系短期大学教育の評価」

九州教育学会研究紀要第 33 巻（平成 18 年 8 月刊）

参考文献

1) 短期大学基準協会(2005),「短期大学卒業生の進路・キャリア形成と短大評価」最終報告書

2) 宇佐見忠雄(2006), 現代アメリカのコミュニティ・カレッジ 東信堂